

南九州，肝属低地の泥炭層の AMS 放射性炭素年代 AMS radiocarbon dating of peaty layers in Kimotsuki lowland, southern Kyushu

藤木 利之¹; 奥野 充^{1*}; 中村 俊夫²; 森脇 広³

FUJIKI, Toshiyuki¹; OKUNO, Mitsuru^{1*}; NAKAMURA, Toshio²; MORIWAKI, Hiroshi³

¹ 福岡大・国際噴火史情報研究所, ² 名古屋大・年代測定センター, ³ 鹿児島大・法文学部

¹ACRIFIS-EHAI, Fukuoka Univ., ²CCR, Nagoya Univ., ³Fac. Law, Econ. Human., Kagoshima Univ.

南九州の肝属低地には、中期完新世以降の泥炭層が堆積しており、その放射性炭素 (¹⁴C) 年代を使ったウイグルマッピングが適用可能である。また、泥炭層には開聞岳、桜島および霧島火山から飛来した複数のテフラが挟在しており、これらを用いて、¹⁴C 年代の再現性を検証することができる。一方、それらによってのテフラの年代を正確に決定することができる。このポスター発表では、ここで得られたコア試料についての ¹⁴C 年代を示し、これらから決定した各テフラの年代を報告する。

キーワード: 肝属低地, 泥炭層, テフラ, 放射性炭素年代

Keywords: Kimotsuki lowland, peaty layer, tephra, radiocarbon date